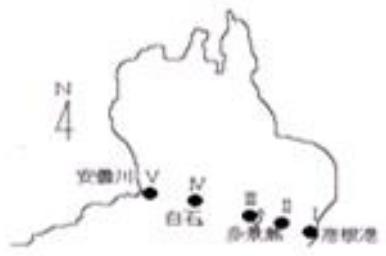


# 琵琶湖定期観測結果速報(令和7年11月)

数値は速報値であり、確定値ではありませんので、ご留意下さい。

調査年月日 令和7年11月12日

調査地点 彦根市～高島市安曇川町に至る5地点  
(ただし、湖岸水温は彦根市八坂町  
滋賀県水産試験場地先における測定値)



調査地点図

## 調査結果

平均値 … 5地点の平均値

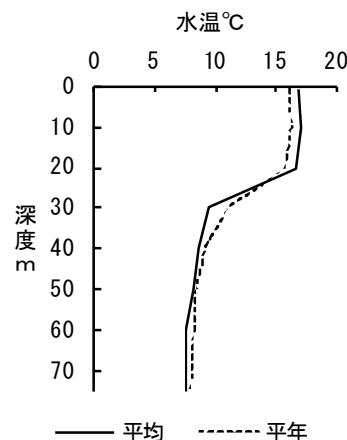
平年値 … 透明度、湖水温、湖岸水温、プランクトン沈殿量は1991年～2020年(平成3年～令和2年)の同時期調査の平均値

DO(溶存酸素濃度)は2015年～2024年(平成27年～令和6年)の同時期調査の平均値

1. 透明度 11月平均値 5.0m 平年値 6.3m

## 2. 湖水温 (°C)

深度(m)	11月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0.5	16.9	16.1	+0.8
10	17.0	16.2	+0.8
20	16.7	15.6	+1.1
30	9.5	10.9	-1.4
40	8.5	9.1	-0.6
50	8.1	8.4	-0.3
60	7.7	8.1	-0.4
75	7.6	7.9	-0.3



## 3. 湖岸水温 (°C)

月(旬)	平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
10月下旬	20.0	18.6	+1.4
11月上旬	17.6	16.9	+0.7
11月中旬	15.9	15.3	+0.6

#### 4. プランクトン沈殿量 (ml/m<sup>3</sup>)

水層 (m)	11月平均値	平年値	平年差
			(平均値-平年値)
0~10	20.2	15.8	+4.4
10~20	5.6	5.0	+0.6
20~40	2.4	2.0	+0.4
40~75	0.6	0.5	+0.1

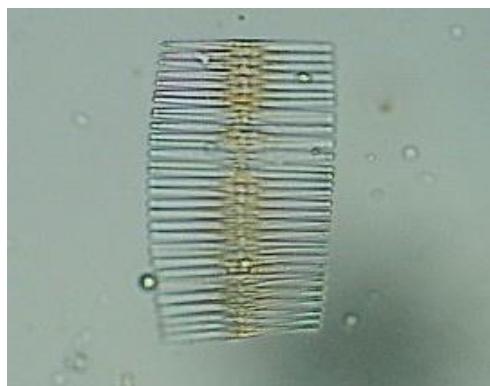
(プランクトンネットNX14使用)

#### 5. 表層のプランクトン優占種

○プランクトンネットNX14による採集(5%中性ホルマリン固定。植物プランクトンは地点Iと地点IV、動物プランクトンは全地点)

植物プランクトンについては、両地点とも*Fragilaria crotonensis*(オビケイソウ:珪藻)の細胞数が最も多かった。

動物プランクトンについては、全地点ともカイアシ類のノープリウス期幼生の個体数が最も多かった。



*Fragilaria crotonensis*



ノープリウス期幼生

#### 6. DO (溶存酸素濃度 : mg/L) 多項目水質計による測定値。

深度 (m)	11月平均値		平年値		平年差	
	DO (酸素飽和度%)	DO (酸素飽和度%)	DO (酸素飽和度%)	DO (酸素飽和度%)	DO (酸素飽和度%)	DO (酸素飽和度%)
0.5	9.4	97.2	9.6	99.5	-0.2	(-2.3)
10	9.3	96.6	9.5	98.1	-0.2	(-1.5)
20	9.3	95.6	9.3	95.1	0.0	(+0.5)
30	7.8	67.6	7.4	68.0	0.4	(-0.4)
75	4.3	35.7	4.0	34.0	0.3	(+1.7)